

地域の活性化を目指したブランド戦略

全国的に経済状況が悪化している中で、財政状況の逼迫による公共投資の減少や産業構造の違いによることなどにより、ますます地域格差が生じてきました。

このような状況下において、地域ではその資源や知恵を最大限に活用して、経済の活性化を図ろうという意識が強まっています。

また、「安全」・「安心」・「本物」を求める消費者の志向や、「癒し」・「やすらぎ」を求める住民のニーズが高まる中、地方の産地や観光地は、全国の消費者を相手とした新しいビジネスの展開をすることが必要になってきました。

こうした中で、地域の特徴的な商品やサービスに地域名を付加して、他地域との差別化を図るため、地域資源を「地域ブランド」として特化し、その魅力を全国に発信することにより、地域経済の活性化につなげようと取

り組んできました。

その結果、蒲郡市で最初に「三河木綿」、続いて「蒲郡みかん」が地域団体商標として登録され、地域ブランドとして認定されることになりました。

そこで、既にブランド化されている「三河木綿」と「蒲郡みかん」の歴史的背景や新しくブランド化をめざす「蒲郡メヒカリ」について紹介します。

地域団体商標登録(1)

三河木綿

三河木綿は、古くは三河国でつくられた綿布のことをいいます。この地方では江戸時代から綿の栽培が行われていましたが、これで行った綿布を三河木綿として売り出すようになったのは、明治に入ってからと言われています。

三河木綿は厚くて丈夫なことから、暮らしの布として利用され、縦縞のシンプルな模様から



愛知県のブランド商店街に認定された蒲郡商店街
(写真は中央通りで行われた福寿稲荷ごりやく市)

綿



「三河縞^{じま}」とも呼ばれており、綿製品ならではの風合いが特徴で、質の良い綿織物として今日まで受け継がれています。

この歴史的背景を活かし、三河織物工業協同組合が中心となり、産地一丸となってブランド化に取り組んだところ、平成19年2月2日付で、三河木綿が蒲郡市で初めての地域団体商標として登録されました。



平成19年2月に地域ブランドに認定された「三河木綿」

現在では、衣服をはじめバッグ・名刺入れなど普段使っている小物、クッション・テーブルクロス・タペストリーなどの部屋のインテリアとして、また、外国へのお土産や贈り物としてさまざまな製品を商品化しています。

蒲郡市は、デザイン・撚糸^{ねんし}・染色・織り・縫製^{ほうせい}など、すべての工程を産地内で完結することができる特異な産地として、今後もしも知名度を高めると同時に、三河木綿のブランドを前面に押し出した産地活性化策を推進していきます。